

シラバス

科目番号・科目名	(1) 職務の理解		
指導目標	1. 多様なサービスの理解 2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 多様なサービスの理解	3	3	〈講義内容〉 ○介護保険サービスの理解（居宅、施設） ○介護保険外サービス理解
2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	〈講義内容〉 ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
合計時間数	6	6	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（第一巻）日本医療企画使用 1. P1～43
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援		
指導目標	<p>・具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。</p> <p>・具体的な事例を複数提示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化(ちえんか)に資(し)するケアへの理解を促す。</p> <p>・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。</p> <p>・虐待(ぎゃくたい)を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。</p>		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 人権と尊厳を支える介護	4.5	4.5	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 人権と尊厳の保持</p> <p>○個人としての尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護</p> <p>(2) ICF</p> <p>○介護分野における ICF</p> <p>(3) QOL</p> <p>○QOL の考え方、○生活の質</p> <p>(4) ノーマライゼーション</p> <p>○ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5) 虐待防止・身体(しんたい)拘束(こうそく)禁止</p> <p>○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援</p> <p>(6) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>○個人情報保護法、○成年(せいねん)後見(こうけん)制度</p> <p>○日常生活自立支援事業</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>○虐待のケース・スタディ</p>
2. 自立に向けた介護	4.5	4.5	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 自立支援</p> <p>○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性/個別ケア、○重度化防止</p> <p>(2) 介護予防</p> <p>○介護予防の考え方</p>

シラバス

合計時間数	9	9	
-------	---	---	--

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（第一巻）日本医療企画使用 P47～117		
------------	---------------------------------------	--	--

シラバス

科目番号・科目名	(3) 職務の理解		
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。 		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 介護環境の特徴の理解</p> <p>○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性</p> <p>(2) 介護の専門性</p> <p>○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム</p> <p>(3) 介護に関わる職種</p> <p>○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担</p>
2. 介護職の職業倫理	1.5	1.5	<p>〈講義内容〉</p> <p>2.職業倫理について</p> <p>○専門職の倫理の意義、○介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重</p>
3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 介護における安全の確保</p> <p>○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード</p> <p>(2) 事故予防、安全対策</p> <p>○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、○情報の共有</p> <p>(3) 感染対策</p> <p>○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、○「感染」に対する正しい知識</p>

シラバス

4. 介護職の安全	1	1	〈講義内容〉 介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策
合計時間数	6	6	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（第一巻）日本医療企画使用 P119～239
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(4) 職務の理解		
指導目標	<p>・介護保険制度・障害福祉制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。</p> <p>・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害福祉制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</p>		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 介護保険制度	4	4	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進</p> <p>(2) 仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順</p> <p>(3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財源負担、○指定介護サービス事業者の指定</p>
2. 医療との連携とリハビリテーション	2	2	<p>〈講義内容〉</p> <p>○医行為と介護、○訪問看護、○施設における看護と介護の役割・連携、○リハビリテーションの理念</p>
3. 障害福祉制度およびその他制度	3	3	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 障害福祉制度の理念 ○障害の概念、○ICF（国際生活機能分類）</p> <p>(2) 障害者福祉制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>(3) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業</p>
合計時間数	9	9	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（第一巻）日本医療企画使用 P243～368
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術		
指導目標	<p>・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</p> <p>・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。</p>		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 介護におけるコミュニケーション	3	3	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○傾聴、○共感の応答</p> <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語的コミュニケーションの特徴</p> <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、○失語症に応じたコミュニケーション技術、○構音障害に応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>○共感について（事例検討） ○傾聴体験</p> <p>○受容について（個性・価値観の違いについてグループワーク）</p>
2. 介護におけるチームのコミュニケーション			<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 記録による情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類、○個別援助計画（訪問・</p>

シラバス

	3	3	通所・入所・福祉用具貸与等)、ヒヤリハット報告、○5W1H (2) 報告 ○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 ○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場 (利用者と頻回に 接触する介護者に求められる観察眼)、○ケアカンファレンスの 重要性
合計時間数	6	6	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト (第二巻) 日本医療企画使用 P1～80
------------	---------------------------------------

シラバス

科目番号・科目名	(6) 老化の理解		
指導目標	・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	3	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応(反射)の変化、○喪失体験</p> <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼(そしゃく)機能の低下、○筋・骨・関節の変化、 ○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響</p>
2. 高齢者と健康	3	3	<p>〈講義内容〉</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害(脳(のう)梗塞(こうそく)、脳出血、虚(きょ)血性(けつせい)心(しん)疾患(しっかん))、○循環器障害の危険因子と対策 ○老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥(しょうそう)感を背景に、「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症)、○誤嚥(ごえん)性(せい)肺炎(はいえん)、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい</p>
合計時間数	6	6	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト(第二巻)日本医療企画使用 P 8 1~145
------------	---

シラバス

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解		
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ・ 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。 		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 認知症を取り巻く状況	1.5	1.5	〈講義内容〉 認知症ケアの理念 ○パーソン・センタード・ケア、○認知症ケアの視点（できることに着目する）
2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5	〈講義内容〉 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義、○物忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬
3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	1.5	〈講義内容〉 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状（BPSD） (2) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通じたコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア
4. 家族への支援	1.5	1.5	〈講義内容〉 ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減（レスパイトケア） 〈演習実施方法〉 ・ 認知症のケース・スタディ
合計時間数	6	6	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（第二巻）日本医療企画使用 P147～202
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(8) 障害の理解		
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。 		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 障害の基礎的理解	1	1	〈講義内容〉 (1) 障害の概念とICF ○ICFの分類と医学的分類、○ICFの考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの理念
2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1	〈講義内容〉 (1) 身体障害 ○視覚障害、○聴覚、平衡障害、○音声・言語・咀嚼障害、○肢体不自由、○内部障害 (2) 知的障害 ○知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ○統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患、○高次脳機能障害、○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心身の機能障害
3. 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1	〈講義内容〉 家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援、○介護負担の軽減
合計時間数	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（第二巻）日本医療企画使用 P203～272
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術		
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。 		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 介護の基本的な考え方	4	4	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理論に基づく介護 (ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ○法的根拠に基づく介護
2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	4	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習と記憶の基礎知識 ○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ○こころの持ち方が行動に与える影響 ○からだの状態がこころに与える影響
3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点
4. 生活と家事	3	3	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ○生活歴 ○自立支援 ○予防的な対応 ○主体性・能動性を引き出す○多様な生活習慣 ○価値観

シラバス

			<p>〈実習実施方法〉 限られた食材での献立作成</p>
5. 快適な居住環境整備と介護	4	4	<p>〈講義内容〉 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用具貸与</p> <p>〈演習実施方法〉 居室内での事故に対する危険予知トレーニング</p>
6. 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	<p>〈講義内容〉 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ○身じたく ○整容行動 ○洗面の意義・効果</p> <p>〈実技演習実施方法〉 ●講師1名体制での指導 ○肢体不自由者のベッド上での寝衣更衣（上・下） ○肢体不自由者の座位での衣服着脱介助（上・下）（弛緩マヒ拘縮マヒ）</p>
7. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	10	10	<p>〈講義内容〉 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <p>○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ○利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援 ○重心・重力の働きの理解 ○ボディメカニクスの基本原理 ○移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） ○移動介助（車いす・歩行器・つえ等） ○褥瘡予防</p> <p>〈実技演習実施方法〉 ●講師1名体制での指導 ○ベッドメイキング○ベッド上での体位変換（上方移動・仰臥位から側臥位・仰臥位から端座位等） ○肢体不自由者の立位介助・座位介助 ○肢体不自由者のベッドから車いすへの移乗介助（全介助・一部介助）</p>

シラバス

			○車いすの安全点検 ○車いす移動介助 ○視覚障害者の歩行介助 ○肢体不自由者の歩行介助 (T字杖)
8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3	<p>〈講義内容〉</p> <p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>○食事をする意味 ○食事のケアに対する介護者の意識 ○低栄養の弊害 ○脱水の弊害 ○食事と姿勢 ○咀嚼(そしゃく)・嚥下(えんげ)のメカニズム ○空腹感 ○満腹感 ○好み</p> <p>○食事の環境整備 (時間・場所等) ○食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ○口腔ケアの定義 ○誤嚥性(ごえんせい)肺炎の予防</p> <p>〈実技演習実施方法〉 ●講師1名体制での指導</p> <p>○口腔ケア (歯磨き・義歯洗浄等) ○口腔機能回復 (嚥下体操等) ○肢体不自由者に対する座位での食事介助 ○視覚障害のある利用者の食事介助</p>
9. 入浴、清潔保持に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	<p>〈講義内容〉</p> <p>入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>○羞恥心(しゅうちしん)や遠慮への配慮 ○体調の確認 ○全身清拭 (身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方) ○目・鼻腔(びくう)・耳・爪の清潔方法 ○陰部清浄 (臥床(がしょう)状態での方法)</p> <p>○足浴・手浴・洗髪</p> <p>〈実技演習実施方法〉 ●講師1名体制での指導</p> <p>○ベッド上での洗髪 ○手浴 ○肢体不自由者に対する座位での足浴</p>
10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	<p>〈講義内容〉</p> <p>排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>○排泄とは ○身体面 (生理面) での意味 ○心理面での意味</p> <p>○社会的な意味 ○プライド・羞恥心 ○プライバシーの確保</p>

シラバス

			<p>○おむつは最後の手段／おむつの弊害 ○排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ○便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）</p> <p>〈実技演習実施方法〉●講師1名体制での指導</p> <p>○肢体不自由者のベッドからポータブルトイレへの介助</p> <p>○ベッド上でのおむつ交換 ○差し込み便器、尿器での介助</p>
1 1. 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	1	1	<p>〈講義内容〉</p> <p>睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害(そがい)するところとからだの要因の理解と支援方法、</p> <p>○安眠のための介護の工夫 ○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ○安楽な姿勢・褥瘡予防</p>
1 2. 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	10	10	<p>〈講義内容〉</p> <p>終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <p>○終末期ケアとは ○高齢者の死にいたる過程（高齢者の自然死（老衰）、○臨終(りんじゅう)が近づいたときの徴候と介護</p> <p>○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性</p>
1 3. 介護過程の基礎的理解	5	5	<p>〈講義内容〉</p> <p>○介護過程の目的、意義、展開</p> <p>○介護過程とチームアプローチ</p> <p>〈実技演習実施方法〉●講師1名体制での指導</p> <p>○ICFに基づくアセスメント ○介護計画の立案</p>
1 4. 総合生活支援技術演習	7	7	<p>〈実技演習実施方法〉</p> <p>生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>○事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例 1.5 時間程度で上のサイクルを実施する）</p> <p>○事例は後例（片まひ、認知症、要介護1、座位保持不可）から</p>

シラバス

			2 事例を選択して実施
合計時間数	75	75	
使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（第三巻）日本医療企画使用 P1～P463 使用物品 ベッド・車いす・ポータブルトイレ・簡易浴槽・シーツなど		

シラバス

科目番号・科目名	(10) 振り返り		
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅、施設の場合であっても、「利用者の生活拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等を含む）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるように理解を促す。 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを受講生自身に言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・受講生一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 ・次のステップアップへ向けての課題を受講生が認識できるよう促す。 		
項目番号・項目名	時間数	通学学習時間	講義内容・演習の実施方法
1. 振り返り	2	2	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修を通して学んだことについて（グループディスカッション） ○今後継続して学ぶことについて（グループディスカッション） ○根拠に基づく介護についての要点（ICF と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
2. 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2	2	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○継続的に学ぶべきこと ○マナー・挨拶の大切さについて ○研修終了後における継続的な研修について（off-JT OJT について）
合計時間数	4	4	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（第三巻）日本医療企画使用 P465~467
------------	--